

ープログラムー

0. 【概要説明】
シャレットワークショップ越前大野の概要
1. 【全体計画】
2. 【水の全体計画】
3. 【工場と工場跡地利用計画】
4. 【河川と生活】
5. 【町家集合住宅計画】
6. 【町家計画】
7. 【商店街再生計画】



学生と地域との連携によるシャレットワークショップ

越前大野のまちづくりデザインを考える 講評会



日時：9月10日（金） 9：30～12：00
会場：富山大学 富山大学五福キャンパス・理学部多目的ホール
※参加無料

作品展示期間：9月9日～9月11日

◆概要

本講評会は、平成22年9月1日から9月5日の期間、福井県大野市で開催されたシャレットワークショップでの成果を発表するものです。公募によって選ばれた全国の学生が5日間集中的に議論し、越前大野のまちづくりデザインを提案するのが本ワークショップの目的です。

地域の方々や建築・都市計画の専門家とともに「まち全体」、「水とまちとの関係」、「河川と生活」、「工場と工場跡地」、「町家」、「商店街」などのテーマについて討論し、実践的なまちづくりのデザインを提案します。ぜひお気軽にご参加ください。

◆シャレットとは？

シャレットとは、専門家が短時間で活発な意見交換をし、成果を出す、という意味で用いられています。本来「シャレット」とは、フランス語で「手押し車」の意味ですが、ボザールの学生が締め切り前に図面や模型などを手押し車に乗せて運んでいたことから、芸術や建築などを学ぶの学生が、プロジェクトの最終締め切りに向けて成果物を仕上げるために最大限の努力を尽くす、という意味でも用いられています。

◆参加大学

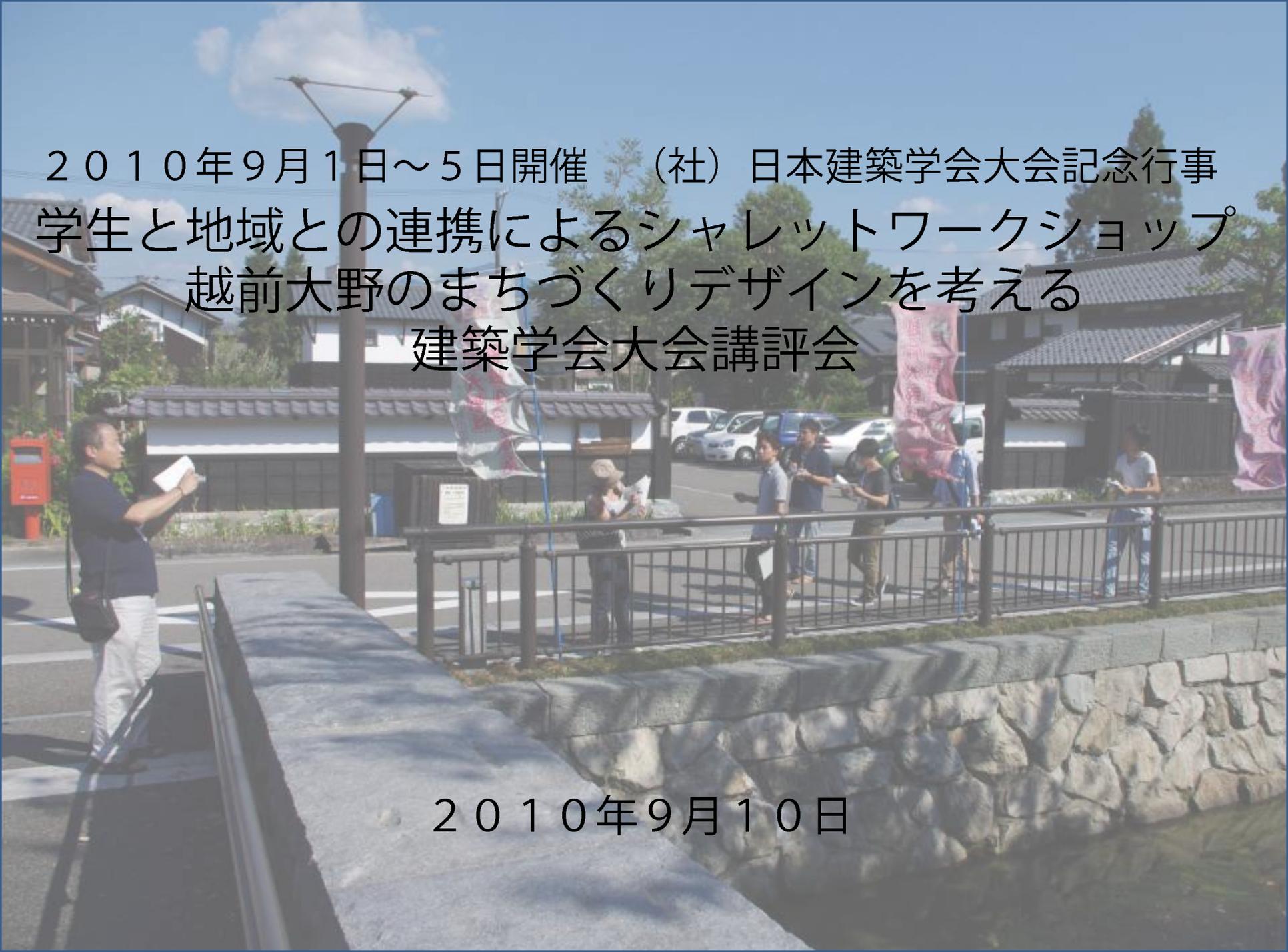
弘前大学・東北大学・筑波大学・日本大学・工学院大学・明治大学・東京工業大学・首都大学東京・神奈川大学・金沢工業大学・福井大学・関西大学・大阪大学・大阪市立大学・広島大学・山口大学・九州大学

＜主催＞（社）日本建築学会大会実行委員会

＜共催＞（社）日本建築学会都市計画・デザイン教育小委員会、NPO法人まちづくりデザインサポート

＜協賛＞大野市

＜協力＞大野市商工会議所、（社）福井県建築士会大野支部



2010年9月1日～5日開催 (社)日本建築学会大会記念行事
学生と地域との連携によるシャレットワークショップ
越前大野のまちづくりデザインを考える
建築学会大会講評会

2010年9月10日

建築学会主催によるシャレットワークショップの意味 (継続的な主体によるシャレットワークショップの開催)

公的機関が全国から意欲の高い参加者(大学院レベル)を募り、合宿形式によるワークショップを開催することで、一大学やコンサルタントの垣根を超えた効果を期待できる



- ・行政や街の人々からの信用を得たコミュニケーションが可能
- ・都市計画や建築の専門家による集中的指導とディスカッション
(手厚い教育比率)
- ・全国各地を対象とした日頃の研究や知見をベースに、質の高い調査・分析と提案をすることができる

シャレットワークショップにより期待できる効果と影響

■参加者への教育効果

- ・包括的なまちづくりデザインの実践教育により、都市計画や建築のジャンルにとらわれない**総合的な視野**を養い、地域に根ざしたまちづくりの**専門家を育成**する。

■まちづくりへの影響

- ・第三者からの具体的なビジョンにより、まちづくりの**議論を活性化**し、促進する。(分かりやすい絵や図面の提供)
- ・行政や市民の意識啓発
- ・新しい人的ネットワークの形成

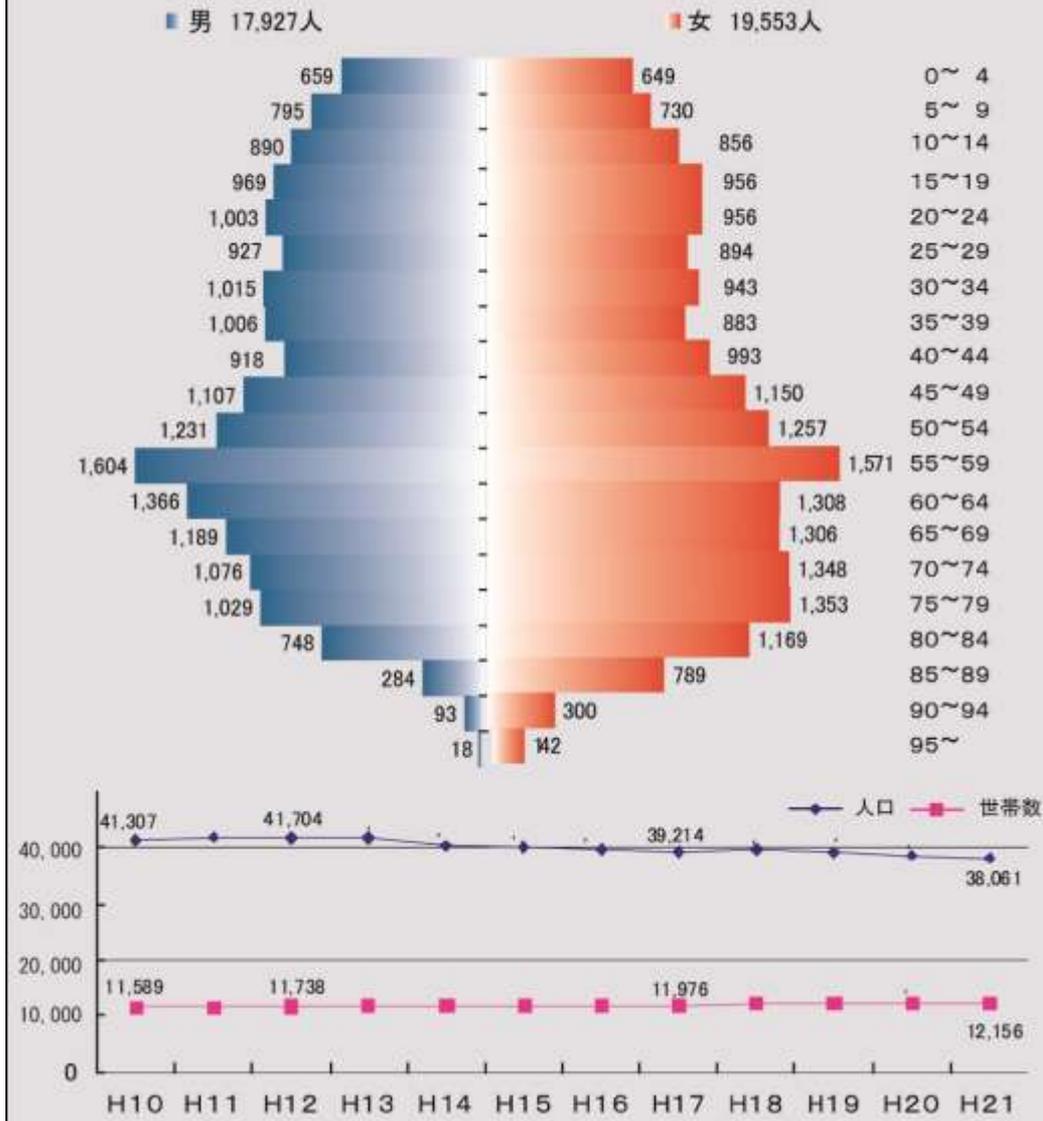
A traditional Japanese wooden water gate (kajiki) stands over a canal. The gate has a gabled roof and a lattice-like structure. The canal is bordered by stone walls, and there are potted plants on the left side. In the background, there are traditional Japanese buildings and a clear blue sky.

福井県大野市越前大野の概要

■大野市の位置



■大野市の人口・世帯数変動と人口ピラミッド



市街地の変遷



安政5年(1858年)の上水路
と下水路(背割り水路)



昭和22年(1947年)の市街地
の街区割り

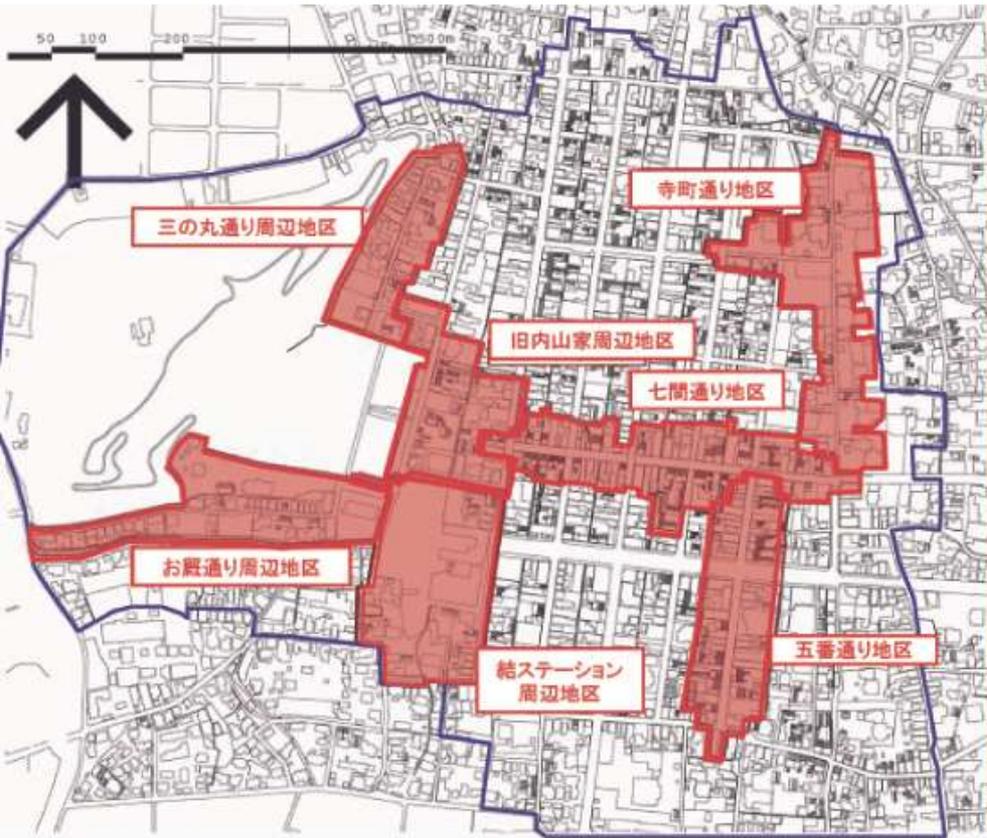


昭和45年の市街地の街区割り

まちづくり事業実施の経緯

計画・条例等	整備事業等	受賞等
S 60 大野市HOPE計画		名水百選:御清水(環境庁)
S 62	歴史の路整備事業	星空の街:街なみ(環境庁)
H 4	七間通り・石畳舗装	寺町通り・石畳舗装
H 9 大野市景観づくり基本計画	石灯笼通り・石畳舗装	武家屋敷「旧内山家」会館
大野市都市マスタープラン		水の都百選:水(国土庁)
H 11 大野市景観条例施行		都市景観百選:城下町 (都市景観大賞)
大規模行為景観形成基準施行	平成大野屋、平蔵オープン	
H 12 大野市緑の基本計画策定		
亀山周辺整備基本構想策定		
大野市都市景観形成市民団体 助成金交付要綱制定	特定優良賃貸住宅供給促進 事業・インフィル型住宅	
H 13	大野市東二番町屋住宅	アメニティあふれるまちづくり表彰 (環境庁)
街なみ環境整備事業計画の策定		
H 14		活力あるまちづくり産業経済部門 (地域づくり総務大臣表彰)
街なみ環境整備事業(第1回、第2回ワークショップ)		
H 15 街なみ環境整備事業整備方針の策定		
H 16 大野市公共サイン整備計画策定		
街なみ環境整備事業計画の策定		
H 17 七間通り、五番通り景観形成地区指定		
大野市都市景観形成建築物等整備事業 補助金交付要綱策定		
まちづくり協定の承認 (五番、七間、お蔵、三の丸通り、旧内山地区)		
H 18 景観行政団体指定		
H 19 大野市景観計画策定		
H 20 大野市中心市街地活性化基本計画 認定		都市景観賞「美しい街なみ優秀賞」:寺町 (都市づくりパブリックデザインセンター)
H 21 都市再生整備計画策定		

大野市の主なハード整備事業



街なみ環境整備事業の整備実施区域

■街なみ環境整備事業



七間通りの整備事例



旧内山家周辺地区の整備事例 2



五番通りの整備事例



旧内山家周辺地区の整備事例 3



サイン整備



旧内山家周辺地区の整備事例 1

■住民参加による整備方針、事業計画づくり

平成 14 年より、街なみ環境整備事業に向けて住民参加によるワークショップを行い、事業方針を策定している。



整備方針の決定



基本計画の決定

■整備完了

- ・街なみ環境整備方針策定 (H14)
- ・街なみ環境整備事業計画策定
- ・地区施設整備費
- ・通路整備 (H18旧内山家)
- ・小公園 (H17~19旧内山家、H20三の丸通り)
- ・下排水 (H18旧内山家、H19~20三の丸通り)
- ・生活環境施設整備費
- ・集会所 (H21結ステーション)
- ・お殿池トイレ整備 (H21お殿通り)
- ・その他大臣
- ・百間堀 (H17~18旧内山家)
- ・道路美化 (H19旧内山家、H19~20三の丸通り)
- ・サイン整備 (H20促進区域内)
- ・塀整備 (H21結ステーション)
- ・街なみ整備助成事業
- ・修景助成 (H17-1棟、H18-3棟、H19-3棟、H21-2棟)
- ・協議会助成 (H18~)

■今後の整備予定

- ・通路整備 (結ステーション)
- ・小公園 (お殿通り)
- ・下排水 (結ステーション)
- ・休憩所 (三の丸通り)
- ・道路美化 (結ステーション、お殿通り)
- ・塀整備 (三の丸、結好、お殿通り)

整備完了済事例

大野市の主なハード整備事業

まちなか町家暮らし支援事業

越前おおの伝統的民家普及促進事業

インフィル型集合住宅の供給



東二番町家住宅



西二番町家住宅

●助成の対象

越前おおの城下町地区内で行う町家型住宅の外観の修景

●助成限度額

改修等：200万円

(新築等：100万円)

●助成修景基準

妻面：板張り＋上部漆喰真壁
袖壁を設ける

本屋：越前瓦葺き軒裏

：登梁又は垂木あらわし

外壁：自然素材

(漆喰仕上げ、板張り)

下屋庇：板葺き・金属葺き・

越前瓦葺き

窓：木製又は黒・茶系色のつや

消し。格子を設ける

●助成の対象

越前おおの城下町地区外
町家型住宅・農家型住宅の外観
修景

●助成限度額

改修等：200万円

新築等：100万円

●助成修景基準

在来工法による木造2階建て

終戦前の伝統的民家を基調

本屋妻壁の前面に瓦葺の下屋

本屋：切妻屋根

本屋下屋とも越前瓦葺き

妻壁：格子組み及び漆喰塗り

様意匠

小屋梁から下の妻壁：漆喰塗

り又は木製板張り

概要：空地を利用して建築された賃貸住宅を市が一括して借り上げ、賃借している。

構造：鉄筋コンクリート造
配慮事項：城下町の景観に配慮した町家風のデザインとし、通りからは2階建に見えるよう設計している。



岩本 慎平	広島大学大学院
岡村 洋介	工学院大学大学院
苅谷 智大	東北大学大学院
高崎めぐみ	金沢工業大学大学院
松山 絵美	工学院大学大学院



勝目 季仁	山口大学大学院
川上 晋平	関西大学大学院
下山万理子	筑波大学大学院
田中 順己	福井大学大学院
中村 太一	大阪大学大学院



内海 康也	東北大学大学院
忠 快仁	首都大学東京
長谷川 伸	九州大学大学院
増井 徹	大阪市立大学大学院
丸山 洋平	明治大学大学院
三澤 穂高	神奈川大学大学院

河川と生活



荒川 佳大	東京工業大学大学院
木村 愛美	山口大学大学院
佐田 彩	大阪市立大学大学院
水谷 亮	日本大学大学院
東原 一樹	日本大学大学院
村中 奈々	明治大学大学院

町家 1



石神絵里奈	九州大学大学院
河形 信和	金沢工業大学大学院
川島 悠都	明治大学大学院
齋藤 寛彰	東京工業大学大学院
横村 友哉	福井大学

町家 2



瓜生 宏輝	九州大学大学院
澤田 昇平	首都大学東京大学院
成田 梨菜	弘前大学
福田 善成	福井大学大学院
藤原 康晃	関西大学大学院

商店街と空スーパーの活用



太田 尚子	弘前大学
奥村 拓也	工学院大学大学院
小久保豪和	福井大学大学院
牧野 俊崇	金沢工業大学大学院
横白 直也	大阪市立大学大学院

■講師 13名

小林 正美	明治大学
野嶋 慎二	福井大学
鵜 心治	山口大学
野澤 康	工学院大学
根上 彰生	日本大学
有田 智一	筑波大学
姥浦 道生	東北大学

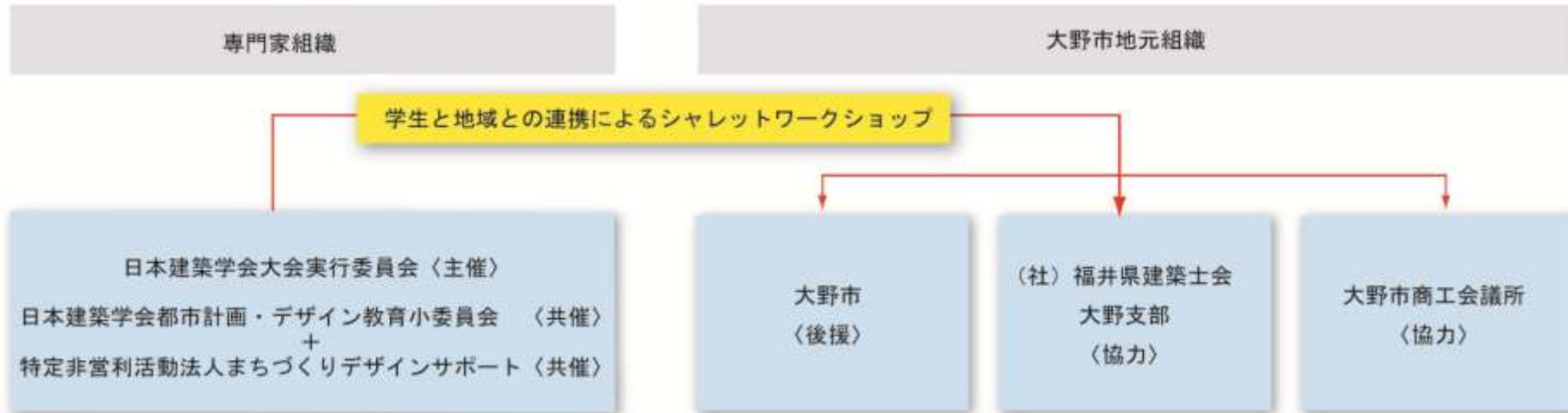
岡 絵理子	関西大学
小浦 久子	大阪大学
北原 啓司	弘前大学
高橋 潤	明治大学
高鍋 剛	都市環境研究所
小林 剛士	山口大学

■スタッフ 2名

出町 慎	関西大学
泉山 聖威	NPO法人まちづくり デザインサポート

シャレットワークショップの位置づけ

シャレットワークショップの位置付けと運営体制



全体スケジュール		グループワーク	位置づけ		
1日目 9月1日	朝顔出	まちの課題 ▼ まちの課題 作業発表	まちの課題 魅力の発見	    	    
2日目 9月2日	シブヤク ▼ グループワーク エスキス	グループワーク	提案テーマ の決定	    	    
3日目 9月3日	エスキス ▼ 市民公開 説明会	グループワーク グループワーク	提案内容の検証	    	    
4日目 9月4日	エスキス	グループワーク グループワーク	提案模型 スケッチ 図面の作成	  	  
5日目 9月5日	市民公開 説明会	グループワーク	成果発表 市民と意見交換		

1日目
9月1日



まちの課題
魅力の発見



1日目 まち歩き／印象発表

2日目
9月2日



提案テーマ
の決定



3日目
9月3日



提案内容の検証



4日目
9月4日



提案模型
スケッチ
図面の作成



5日目
9月5日



成果発表
市民と意見交換



全体
スケジュール

グループ
ワーク

位置づけ

1日目
9月1日

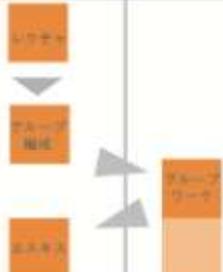


まちの課題
発見



2日目 レクチャー／グループ ワーク

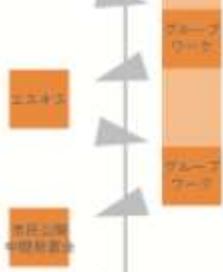
2日目
9月2日



提案テーマ
の決定



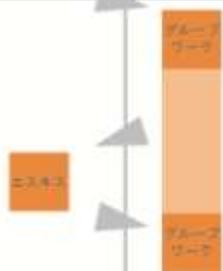
3日目
9月3日



提案内容の検証



4日目
9月4日



提案模型
スケッチ
図面の作成



5日目
9月5日



成果発表
市民と意見交換



全体
スケジュール

グループ
ワーク

位置づけ

1日目
9月1日

朝顔出



まちの課題
発見



3日目 グループワーク/ エスキスチェック/ 中間発表

2日目
9月2日

ワークショップ

グループワーク

エスキス



提案テーマ
の決定



3日目
9月3日

エスキス

市民公開
ワークショップ



提案内容の検証



4日目
9月4日

エスキス



提案模型
スケッチ
図面の作成



5日目
9月5日

市民公開
ワークショップ



成果発表
市民と意見交換



全体
スケジュール

グループ
ワーク

位置づけ

1日目
9月1日

朝顔会

まちの課題

まちの課題
発見

まちの課題
発見



2日目
9月2日

ワークショップ

ワークショップ
開催

ワークショップ

ワークショップ

ワークショップ

提案テーマ
の決定



3日目
9月3日

エスキス

市民公開
ワークショップ

ワークショップ

ワークショップ

ワークショップ

提案内容の検証



4日目
9月4日

エスキス

ワークショップ

ワークショップ

ワークショップ

提案模型
スケッチ
図面の作成



5日目
9月5日

市民公開
ワークショップ

ワークショップ

成果発表
市民と意見交換



4日目 グループワーク/ エスキスチェック



全体
スケジュール

グループ
ワーク

位置づけ

1日目
9月1日

朝顔出



まちの課題
魅力の発見



2日目
9月2日

レクチャー

グループワーク

エスキス



提案テーマ
の決定



3日目
9月3日

エスキス

市民公開
説明会



提案内容の検証



4日目
9月4日

エスキス



提案模型
スケッチ
図面の作成



5日目
9月5日

市民公開
説明会



成果発表
市民と意見交換



5日目 グループワーク/ 最終発表会



1日目(9月1日):まち歩き



1日目(9月1日):グループワーク



1日目(9月1日):まちの印象発表



2日目(9月2日):レクチャー



2日目(9月2日):グループ編成



2日目(9月2日):エスキスチェック



3日目(9月3日):中間発表会 (輝センター)



3日目(9月3日):中間発表会 (輝センター)



4日目(9月4日):グループワーク



5日目(9月5日):グループワーク



5日目(9月5日):最終発表会



5日目(9月5日):最終発表会



1日目の新聞記事

建築を学ぶ全国の学生が研修 まちを歩いてアイデア練る



大野のまちづくり考えて

全国各地で建築を学ぶ学生が大野市に集まり、市民と意見交換。ワークショップが一日、同市で始まった。学生たちは六日までの日程で、まち歩きやグループアイデアセッションを繰り返して、具体的なアイデアを提案する。

日本建築学会都市計画・デザイン教育小委員会（委員長・小林正英明治大教授）などが主催。十八大学から学生や教授ら五十四人が参加し、初日は市議員の案内で、御清水や越前おおのの結ステーション、武家屋敷旧内山家などの観光施設や、古い町家などを歩いて回った。

一日目は、別荘に「水を生かしたまちづくり」などのテーマを設け、町中の資源や課題、可能性などについて、現地調査やデ

ワークショップを通してまとめる。その結果を二日午後六時半から輝センターオープンデッキで中間発表して、市民や市議員らの意見を聞く。それを基に再検討し、五日午後二時から大野有終会館で開くシンポジウムで研究成果を発表する。

(正津聡)

県民福井 2010年9月2日掲載

大野将来像 学生視点で



ワークショップ始まる

大野市が白分たちの視点でまちづくりを考へる將在野短期集中のプロジェクト「シャレットワークショップ」が一日、大野市で始まった。全国から集まった大学生や教授ら五人は日中で滞在し、まち歩きやワークショップ、公開シンポジウムを通して、同市の将来ビジョンを提案する。

県内外18大学 5日公開シンポ

日本建築学会都市計画デザイン教育小委員会と、NPO法人「まちづくりデザインラボ」が主催。全国公募に応じた建築を専攻する大学生らワークショップを開き、各地でまちづくりに関する改善提案などを行っている。

同NPO会長で、六開通りまちづくり検討委員会の委員長を務める福井大・野船橋二教授の提案で、今年は大野市で開催することになった。

県内外の18大学から大学生、大学院生計人と天学教授ら16人が参加。0班に分かれ、市役所職員

の案内で「越前おおのの結ステーション」を訪問し、

七間通り、寺町通りなど、開発が進んできたと感じる市街地の各所を訪問していた。

2日目からは「御清水」名水百選の御清水（泉家の御清水）や「お水な町」を訪れた大学生らは、自分たちで考えた「市民の多くは地下水に頼っている」という職員の間際を熱心なモノ、しゃべり水をつい、冷後、雨時分から同市明倫「おいしい」と感町の御清水を味わう。シンポジウムで発表する。いずれも無料で。

は、大野有終会館でシンポジウムを開き、学生が考えたテーマ別に意見を交わす。ワークショップをめぐって、いざいざ歩いて回れるまちの特性

福井新聞 2010年9月2日掲載

(21) 2010年(平成22年)9月6日(月曜日) 第1版 手1

県内外17大学の学生らが大野のまちづくりのあり方について提案したワークショップのシンポジウム＝5日、大野有祥会館



すてきな大野へ願い満載

景観、住環境、商店街活性化 まちづくり学生ら提案

滞在5日、県内外52人シンポ

大野市内5日間の滞在
し、まちづくりのあり方について考えを深め、期間中(シヤレット)ワークショップに取り組みている学生らが5日、担任らと交わすシンポジウムを大野有祥会館で開催した。学生らは、町下町、大野の景観、生活環境、商店街活性化のテーマで、理想のまちのデザインを提案した。

日本建築学会大分支部、美ノトリ会大分まちづくりデザインサポートが協賛、会場は満員に達した。大野市内5日間の滞在

建築専攻の学生と特定の地域を訪ねてワークショップを開催し、まちづくりに関する政策提案を行っている。

今回となる今年度は福井、大分、東北、山口など県内外17大学の学生37人と大野有祥会館が参加し、1日から大野市内を回り、アグループに分かれて、市職員、市民と意見交換を行ってきた。

シンポジウムで、福井大の田中晴彦さんらのグループは、かつておたけの空間は野原を流れて行得橋を架し、人々と人の交流の場だった。寺町通りの白壁のすまじに水車橋より、住宅の前の水車橋にスチヤや木々を配置して、おしゃべりの空間にする。そこで、一人一人のつながりが生まれるまち、と提案した。

福井川大の建築系さんらのグループは、七瀬通り近頃の建物、街並に、建物を活用した活用方法を提案する。空想をつくるアイデアを提案、提案する。空の建物、道路地は水や緑に囲まれる広場に、住民や観光客らがやすらげる場にと提案した。

学生たちは、模型やイメージ図を活用し工夫を凝らして説明、集まった約100人の市民らの質問に答え、意見を交換した。